

親はみんな新米、失敗しても大丈夫

「それって、甘やかしすぎじゃないの？」と言われたり、そう思われているのではと不安になることはありませんか？落ち着きのない子どもと一緒に、周りにいる人の冷たい視線にさらされることもあります。あからさまに「親のシッケがなってない」と言られて反論できずにつらいことも。公園でお友だちとケンカになり、つい手が出てしまっても「ごめんなさい」が言えなくて、「どんな育て方してますか？」と責められたり、言い訳できない問い合わせにとまどいます。

相談に来られるママから、同じような悩みをたくさん聞くと、きびしい周囲の

まなざしや、傷つく言葉や焦らせるサポートで追い詰められている様子に胸が痛みます。

がんばっているママほど子育ては疲れるでしょう。ここでは、どんなに育てにくくても、発達の弱さがあつても、障害が重度でも、周りの大人が子どものキモチや困りごとをよく知つて、た

くさんの楽しい経験を子育てで体験できれば大丈夫というメッセージを、ママやパパに届けたいと思います。

子育ての軌道修正はむずかしいけれど

「早くことばを話してほしい」「お友だちとうまく遊んでほしい」「トイレでオシッコができるようになつてほしい」「親の言うことを聞いてほしい」など、たくさんのおねがいは切実な親のねがいで

ます。相談に来られるときは「〇〇ができるようになってほしい」がたくさん語られます。

現代社会は困ったことに直面したら、まずは気に入るワードでネット検索がお手軽な解決方法です。画面には「できる」を増やすためのノウハウが山ほど紹介され、あふれる情報に溺れそうになります。そのなかでも、とりあえず住んでいる地域の情報を集めて、通えそうなところや子どもが伸びそうな方法を探します。少しでも「できないこと」が減つて

ママやパパへのメッセージ

相談支援での出会いを通して

京都・NPO法人福祉広場

池添 素



特集 あなたの子育て、 応援したい 障害のある子とともに



「ママ、笑って！」

最近、3歳の息子に言われることがあります。時間で動く日々のなかで知らず知らずのうちに息子の行動を急かし、ときにイライラして目尻が釣り上がり、せわしない顔をしている私。

そんな自分に反省し、おだやかな表情で息子を抱きしめ、あらためてその存在の大きさに感謝し、心から愛しく思う毎日です。

正直子育ては一筋縄ではいかないことばかり。

自分は二の次で子どものことを最優先にする生活、

想像していないことばかり起こり、そのたびに悩み、困惑し、目の前にかわいい子どもがいるのにこんなに苦しいのは私だけ?と孤独を感じます。

周りとつながって、と言われても、助けを求めていいんだよ、と言われても、そんなに簡単なことではない。そう、子育ては大変、それが本音です。

でも、日々、ともにたくさん泣いて、笑いたい。

『みんなのねがい』を開くことで少しでもホッとしたり前を向けたなら、これほどうれしいことはありません。

『みんなのねがい』を通してつながっていきませんか?

(編集部 芝崎芽久実)